



報道関係者各位

平成 26 年 7 月 23 日
青森県立保健大学

「学生発未来を変える挑戦」プロジェクトについて

I. プロジェクト概要

青森県基本計画の実現を目指し、重点目標である3プロジェクトのうち「人口減少克服プロジェクト」に基づいた学生の挑戦的提案について、「新しい青森の観光資源開発～北海道新幹線開業を見据えた八戸～新青森を拠点とする観光圏域を考える（キーワードを軸にして）～」という課題を提案し、採択された。

青森県が直面している課題等についての認識は以下の通りである。

①北海道新幹線開業による通過地帯となる可能性

新幹線が函館まで開通すると本州と北海道が直通となり観光やビジネスの利便性が向上する。反面青森県内の新幹線駅は通過駅となる恐れがあり、観光客の減少も起きうる。ところがそれに対する危機感が薄いと報道されている。

②観光資源開発の必要性

新幹線函館開業を見据えると点としての観光資源ではなく、地域間のつながりや、1年を通じた観光企画といった新しい視点による観光資源開発が求められている。

II. 取り組みの目的と効果

①観光キーワードの提唱

花、祭り、雪をキーワードとして県内各地をくまなく探訪できるルートを開発する。

青森は、桜とタンポポの開花時はほぼ同時であり、黄色の絨毯の上でピンクの花吹雪を鑑賞できる。6月は種差海岸（南部）とつがる市（津軽）でニッコウキスゲが咲く。8月中下旬はあじさいとコスモスが同時に咲く。

夏祭りは、ほぼ同時期にねふた、ネプタ、三社大祭等が開催されている。冬の雪も札幌等を参考にすれば集客が期待できる観光資源となる。

②ルート化による観光集客

桜の時期は、弘前の他青森市（合浦）、五所川原市（芦野）、八戸市（三八城跡）十和田市（駒街道）を周遊する。夏祭りは、三社大祭、十和田祭り、青森ねふた、五所川原立ちねふたを周遊する等一箇所ではなく県内を遊行できるルートを開発する。八戸駅を起点とするならば、八戸→三八城→十和田市駒街道→青森合浦公園（白）→弘前城→五所川原市芦野公園→新青森駅又は青森空港といったルートが想定できる。

このようにキーワードによるルート設定を行うことで青森を観光圏として印象づけることができ、四季を通じて集客が見込める。

III. 活動の概要

①桜とたんぽぽ、各地の祭りの時期を一定時期に調整することができるか、また雪祭りの可能性について調査する。

②宿泊改善

代表的な温泉地及び青森屋（三沢市）を取材し、バリアフリー化の可能性と一人旅への対応状況を調査する。

③ルート開拓

八戸～五所川原・つがる市について実査する。

動期間：平成 26 年 7 月～12 月

参加学生：6名

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1

TEL:017-765-2092

FAX:017-765-2092

担当：社会福祉学科 増山道康
